

2005オリキャン&裏オリキャン報告!

去る4月29・30日、山口県ふれあいパークにて今年で13回目を迎える総科オリエンテーションキャンプが行われました。17生133名、16生115名、編入学生1名、教職員30名、計279名が参加した、2005年のオリキャンに、いざズーム・イン!

1日目 目的地までのバスの中では、オリキャン最初の企画として班対抗のゲームが行われました。どの班も、高得点目指して熾烈な争いを繰り広げたのでありました……。

さてさて、やってきましたふれあいパーク!!入所式を終えて、班紹介へと移りました。(次ページに班写真掲載☆)その後、班ごとに前日作っておいたお弁当を食べました。お日様の下で「キーワードを言わせましょう」というゲームをしながら、和やかなひと時を過ごしました。



*入所式で話を聞く



*班紹介でアピール中☆



*仲良く昼ごはん!



*キャンプ場からの眺め…

昼食の後は昼企画です。男女が手を取り合ってゴールを目指すその姿は、まさに胸キュンもの☆これが「胸キュン♥リレー」です。お次は班対抗の長縄をしました。教職員の方には少々キツかったようです。(^^;)最後は男女別の騎馬戦!なかなか熱い争いでした。(特に女の子……)

各種目を終えて、バス企画・昼企画での班の得点の結果発表が行われました。栄えある第1位は…13班!商品はなんと国産黒毛和牛500g!予想外の高級品に、一同驚きでした。

実は13班、高級なお肉をカレーに使うのではもったいないと判断し残しておいたのだが、結局お肉が傷んでしまったらしい……。残念!!

班員で協力して作ったカレーを味わった後、お待ちかねの夜企画が始まりました。キャンプファイヤーを囲み、班の枠を超えて色んな人と触れ合って全員大いに楽しんだようです。



*胸キュンリレー、奮闘中…



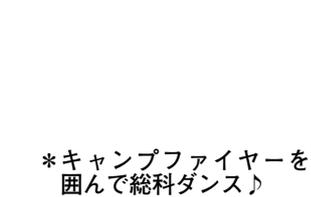
*仲よくゴール♪



*騎馬戦—女の戦い—



*リズムを合わせて大縄跳び!



*キャンプファイヤーを囲んで総科ダンス♪



*恐るべし、マツケン隊!
罰ゲームがわりに、1年生に
踊り(襲い)かかります!!



2005オリキャン&裏オリキャン報告!

2日目 眠たい目をこすりつつ朝食を済ませ、ウォークラリーへと繰り出しました!各エリアでは様々なお題が出されました。下の写真にもあるように、16生の先輩が考えたお題の内容やネーミングはどれもユニークで面白いものでした。どの班も、持ち前のチームワークで乗り切ることができたようです。



*教職員も一緒に朝食タイム *「チョッキン☆チョッキン」 *「届け!私の思い」 *「頭領は誰だ?!」 *人文字に挑戦!

見事1位になったのは6班。残念ながら最下位だったのは3班。3班には罰ゲームのオマケ付きでした。みんなお疲れ様!

楽しかったオリキャンも終わりが近づいてきました。退所式での館長さんの言葉、「“思い出”という宝物を持って帰ってください。」に感動しつつ、私たちは山口県を後にしました。

こうしてオリキャンは幕を閉じました。私たち17生がオリキャンを楽しめたのは、施設の方々、教職員の方々、そして長い時間をかけて企画してくださった16生の先輩方のお陰です。ありがとうございました。この事への感謝を胸に、私たちは来年もより良いオリキャンを作り上げるでしょう。



*帰りのバスはみんな熟睡……

*17の総代決定!

☆班紹介☆



(担当:17生 高木史 藤山文)

注) 各記事末尾の担当者名にある「○生」とは、「平成○年度入学者」の意味です。



2年生スタッフの証・スタッフジャンパー（スタジャン）。着るだけで連帯感が感じられると共に、1年生にもスタッフが一目で分かって便利です。

今年は例年通りの白い生地に、ワインレッドのインクで右のイラストがバックプリントされていました。

INTEGRATED ARTS & SCIENCES

(=総合科)で♥が形作られたデザイン。手違いで2年スタッフ全員に「フェロー」の刺繍が入ってしまい、交換作業が大変！なんていうアクシデントも起こりました。



リハキャン

3/1~2

それまでの計画を、16生だけで実行に移すリハキャン。本番さながら一泊二日の中で、晴れ企画も雨企画もこなす強行スケジュール！ここで出た反省点や教訓が、新入生を迎える本番で活かされたのは間違いありません。



アクシデント①バスが止まった！

現地への山道が工事中でバスが通れず、歩いて登らされる人も。時間の予定も総崩れ！

アクシデント②寒すぎる～！

昼企画のリハーサルは雪が降っていました…。

前企画

オリキャンへの流れの一環として、新入生を班分けする前にそれぞれ交流してもらい、また大学生活のガイダンスなども行う前企画。花見・裏ガイダンス・新歓とイベントを分け、それぞれ企画担当者をつけて準備しました。

今年は春が遅く、花見当日に桜が咲いていない等のハプニングも…。しかし17生同士交流できるよう趣向を凝らしたゲームや、大学生活の生の声を伝えることで新入生の不安を減らせるガイダンスなどのおかげで、前企画の意義は十分だった様です。

この後17生もそれぞれ班に別れ、ダンス練習や班グッズ作りなど、オリキャン本番に向けて動き出していきます。

4/4→花見
4/7→裏ガイダンス
新歓

この他にも、地味な下準備やアクシデントなど、盛り込みきれなかったことがたくさんありました。動き回ったスタッフのみなさん、本当にお疲れ様でした!!!

(担当：16生 佐藤理沙)

16生オリキャン反省会



としお：総務長



さんた：総代



もりお：現地連絡



とね：物品長



P：当日企画長

16生幹部メンバー4人とともに、今年のオリキャンについて振り返ってみました!!!



さとり：庶務

P 今回のオリキャンでは、「連絡の取り方が下手だった」ということが私的に一番問題だったと思うんだけど、みんなどう思う？

さんた 各企画長が自分達の判断で進めていて、決まったことについての連絡がほとんど総代・総務長まで来なかったっていうのはあるね。俺らも確認を取れば良かったんだけど、実際、企画内容の状況が把握できていないから質問も出来んよな。

P 各企画に任せていい部分と、こちら幹部が把握しないといけない部分の区別が

難しかったね。

もりお それは連絡の具体的な役割分担を決めなかったけんやる。だから、情報共有の時間を定期的に作っとけば問題はなかったかなと思うんだけど。

としお ……作ったんやけど…。

さんた 話し合いの場を決めるのが毎回毎回急だったってのもあって、話し合うための準備ができていない。何よりも、全員が揃わない！もう、みんな、起きろ！

全員 (笑)

P やっぱ、決まったことは必ず報告する、って前もって言うべきだったよな。

もりお そういうことをするのが庶務とか…庶務よな。

さんた イマイチ機能せんかったな。

さとり 情報が回ってこんかったからねえ。

さんた まあね。だから、企画を立ち上げる一番最初の段階から来ていれば問題なかったんよな。むしろ、総務に庶務を作った後付けするのではなく、企画の中に庶務係を作ればよかったんだよ。

とね 物品もそうすれば良かったね。

さんた 企画を考える時点で参加しとらんと置く物も分からんしな。

P まあ、何よりも16生は、フェローと企

画長が重なったりして、一部の人に仕事があつまつたというのが問題だよな。

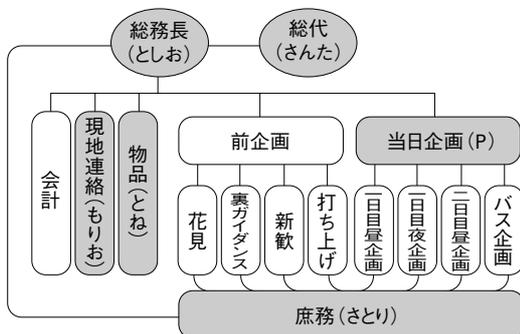
さんた あれは絶対変えんと難しい。分けんと動かんよ。実際。まあフェローと企画長のどっちを先に決めるかによっても違うよな。

さとり まずは企画長！

としお どちらかしか出来んことを示した上で決めたほうがええな。

さんた でもまあ終わったからいいものの、今回の人選はあれ以外に考えられんって。

2005年オリキャン組織図 ※(括弧)内は反省会参加者



としお それは学年のカラーによるな。フェローと企画長が被るのはしゃあない部分はあるよな。

さんた スタッフの間の温度差は埋めれんて、やっぱり。

もりお うーん、それはどうだろう？元々温度差があるにはあるんだろうけど、やる前から一部だけで動いている感があるから温度差が生まれるんじゃないかな。

さとり 実際すごくそう思うよね。情報を与えて考える機会を作れば、考える子は結構おる訳よ。そういう子を切り捨てちゃってる面はあるじゃん。

もりお 本人たちのやる気の問題もあるけど、情報が行ってるかっていったらほぼ行っていない。明らかに。

としお やっぱり、何ヶ月も前の段階で予定を入れさせるべきやな。

さんた それ。来てくれんとどうしようもないけえね。

とね 来れなかった人のフォローはしないの？

さんた んー、フォローするのは正直難しいんよね。

さとり でも今どれくらいまで進んでるっていうのを、何となくでも分かったら・・・。

さんた そうね。

さとり ちょっとは参加してる気持ちにな

れる。

全員 うーん・・・。

P やっぱり、うちら幹部が情報を与えられなかったっていうのはあるよね。

もりお まっ、何よりも17生に伝える事は、「早くね」っていうことなんよ。

全員 (笑)



と出ると無交わりが、反省点をかなり？も、意見が飛ぶか分からないほど熱く語りあった3時間。オリキャンの反省点をかなり？も、意見が飛ぶか分からないほど熱く語りあった3時間。オリキャンの反省点をかなり？も、意見が飛ぶか分からないほど熱く語りあった3時間。

さとり あのさ、オリキャンの目的って何だと思ってた？

とね ふれあい系。

全員 (笑)

さんた まず「一年同士が話せるようにしよう」っていうのが多分俺らの中で一番

大きい目的よね。だからこそ一年生だけでやっている企画が多いはず。

P それは有効だったと思ってるけど、先生たちは違うんかね？

さんた つーか、学校側が考えているオリキャンの意味ってもっとはっきり教えてほしいよね。

P あと、本番までには先生たちと普通に話せるようになっていた方がいいね。

としお そのために、前もって顔を合わせるのがあんなんで。まあ先生たちと議題を持って話したりするべきやな。

さんた じゃあ、学祭が終わったら話し合い持てばいいじゃん。

もりお 早めにね。まあ要は引き継ぎだね。来年度のオリキャンに干渉する気はないけど、ノータッチではなくてある程度16生が伝えていく必要があるやろ。

P だね。オリキャンでは次の代に繋げるっていうことが一番大事な事だろうね・・・。では、最後に。今年の良かった点を挙げてみてください！

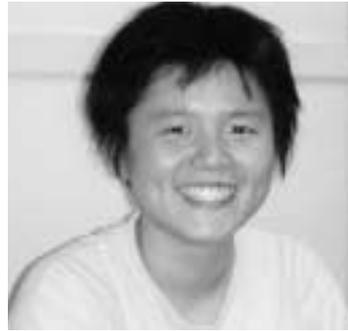
全員 ... (苦笑)

さんた 17生に聞いてください！

以上。16生反省会でした。

15生（兵法彩さん） インタビュー

16年度オリキャン総務長
自主編成プログラム



「今年のオリキャンはスタッフの人数が多かったということが一番大きいだろうねえ。人数が多いほどスタッフ間の温度差はできやすいし、連絡も回りにくいっていうのはあるよね。だけど、まあスタッフが多いのが悪いとはいえないからね。やっぱりさ、スタッフをやりたいという気持ちは皆あるからやる訳だし。その、スタッフの中にある『企画に関わりたい』っていう気持ちは大事にしたいよね。」

スタッフ間の温度差って元々あるんだろけれど、その元々ある差を広げたくないし、広げる必要は無いと思うんだよね。だから、スタッフが『何となくだけど企画に参加しづらい』っていうような、入りにくい場の雰囲気は作りたくないとは思ってるな。

あと、幹部の人は『話し合いに参加できなくて企画の内容が分からない人が、どうやったら内容を把握できるか』みたいな、そういうフオーカッって必要だと思うよ。

オリキャンをやる上で大事になってくるのは、スタッフをやると決まった段階で、オリキャンを企画する側としてどこまで考えているか、だよ。やっぱり、一人一人が何かしようという意識を持ってスタッフをやるべきなんじゃないかな？絶対ひとは仕事をしようっていう意識ぐらひはあつたほうがいいと思うな。」

先輩たちや先生にも聞いちゃいました

14生（仲野瞬さん） インタビュー

15年度オリキャン物品長
創造科学プログラム



「今年の反省を聞くとき、連絡の取り方がまずかったんだろ。ね。スタッフの間の意思疎通がちょっと希薄だったんじゃないかな。何というか、モチベーションの差が明確にできてしまったんだろ。でもそれって毎年あるよね。今年の反省にも出てたように、動かない人ってむしろ企画の状況を把握してないからこそ動けないんだよね。だから幹部の人達が、『動かない人たちをどういう風に動かすか』ということを考えることは必要だと思うな。」

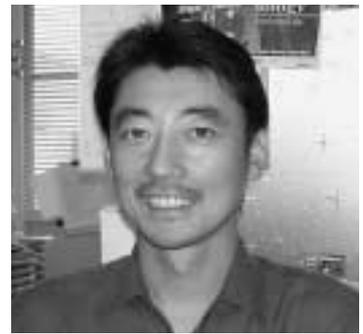
あと、初めの段階でオリキャンに対する明確なビジョンが皆の間で共有されていけば良かったんだと思うよ。逆に、そういうことをインパクトのある形で下の学年の子たちに伝えていくことが大事なんじゃないかな。

企画の中の先生たちへの配慮については、僕らの代も問題になったよ。そうだね。先生たちがオリキャンに参加することの意味を考えて、先生たちが学生に伝えたいことを表現できる機会というのを作るといいかもね。

何よりもさ、考える姿勢って大事よね。相手のことを配慮したっていう気遣いが見えることって大事なんじゃないかな。それって例えうまく表現できなかったとしても、相手に伝わると思うんだ。オリキャンという企画を通して磨かないといけない事って、『人に対してどういう思いやりを持って動くのか』ということじゃないかなって僕は思うよ。」

関矢寛史先生 インタビュー

17年度オリキャン担当教員
人間科学プログラム



オリキャンの目的というのは、特に人付き合いの苦手な人が、友達をたくさん作れるような機会であることと、『どうやったら大学生活をうまく送れるか』という情報を得る機会であることの二つだと思っていますよね。だから僕としては、オリキャンという企画が社会的なスキルを身につけるきっかけとなる場であってほしいですね。」

「二年生は一年生のためにすごく頑張っていたと思いますよ。ただ企画の内容として、体を動かしたり、人前で何かをしたりというような physical な活動が多かったと思います。そういう活動も必要だと思いますが、少人数で静かに考えるという mental な活動も必要だと思うんですね。『誰にでも楽しめる内容か』ということも常に考えて、いろんな人の個性を光らせるような企画を考えて欲しいですね。あと、せっかく景色がすごくいい大自然の中に行くんだから、もっと自然と触れ合うとかね、景色を楽しむというような活動もしてみてもどうでしょうか? こういう機会だからこそ、使える環境を最大限に活かして欲しいですね。例えば、教職員に関しても、教職員にしか出来ないような活躍の場というものをもっと作って欲しいと思います。そしてオリキャンで作った強いつながりを活かして、遊びだけでは終わらない、自主的な活動に繋げて欲しいと思いますね。」

What's Orientation Camp?

オリキャン反省会を終えて・・・

－オリキャンとは何か?－

オリキャンとは「人と人とのつながりをつくるきっかけとなる場」なのではないでしょうか? オリキャンという企画を通して様々な人と出会い、人とつながりをつくることは、自分の視野や考えが広がっていくことにきっと繋がると思います。オリキャンに参加することで新たな発見が生まれてくるのではないのでしょうか。そのようなオリキャンだからこそ、これからの総科全体が繋がっていきけるような企画になってほしいと思います。

最後に、今回のオリキャン反省会を通して、今まで余り接点の無かった14・15生の先輩方や先生の意見を聞くことができ、企画者として運営している時には気づけなかったオリキャンに対しての視点や考えを学ぶことができました。協力してくださった方々、本当にありがとうございました。

(担当: 16生 土持李恵)